

淡江大學 106 學年度進修學士班寒假轉學生招生考試試題

系別：日本語文學系三年級

科目：日語翻譯

17-1

考試日期：1月6日(星期六) 第2節

本試題共 六 大題，兩 頁

* 注意事項：題號標示清楚，不用抄題，不可跳號。

一、閱讀「題目區」內容後，於「答案區」選出正確日文的「諺」或「慣用句」。(1×10=10分)

(題目區)

- 1、() あまり付き合っていない遠くの親類よりも、いつも親しくしている隣近所のよその人の方がいざという時に頼りになるものだ。
- 2、() 多くの人々に知られる。
- 3、() 一つの事をして、同時に二つの良い事を手に入れること。
- 4、() どうしてそうなるか、わけが分からぬ。
- 5、() 評判がよくなる。
- 6、() 忘れないように、しっかり心に刻み込む。
- 7、() 恥ずかしいという気持ちや迷惑をかけたという気持ちがあるので、その人の所に行きにくい鬱え。
- 8、() 食べ物をおいしく味わう様子。
- 9、() 激しく戦う。
- 10、() たくさんの中から、特に選ばれる。

(答案區)

- | | |
|---------------|-------------------|
| ①「我田引水」。 | ⑪「遠くの親類より、近くの他人」。 |
| ②「高嶺の花」。 | ⑫「骨身を削る」。 |
| ③「舌を巻く」。 | ⑬「合点がいかない」。 |
| ④「兄弟は他人の始まり」。 | ⑭「顔が立つ」。 |
| ⑤「しのぎを削る」。 | ⑮「肝がすわる」。 |
| ⑥「顔が売れる」 | ⑯「舌づみを打つ」。 |
| ⑦「株が上がる」。 | ⑰「兜を脱ぐ」。 |
| ⑧「気が遠くなる」。 | ⑲「敷居が高い」。 |
| ⑨「肝に銘じる」。 | ⑳「一獲千金」。 |
| ⑩「一石二鳥」。 | ㉑「白羽の矢が立つ」。 |

二、將下列日文的「諺」、「慣用句」譯成中文的「成語」或「慣用句」。(2×10=20分)

- 1、「嵐の前の静けさ」 ⇨ (中譯) :
- 2、「板挟み」 ⇨ (中譯) :
- 3、「大風吹けば桶屋が喜ぶ」 ⇨ (中譯) :
- 4、「匙を投げる」 ⇨ (中譯) :
- 5、「出藍の誉れ」 ⇨ (中譯) :
- 6、「月とすっぽん」 ⇨ (中譯) :
- 7、「覆水盆に返らず」 ⇨ (中譯) :
- 8、「胸が潰れる」 ⇨ (中譯) :
- 9、「焼け石に水」 ⇨ (中譯) :
- 10、「撒かぬ種は生えぬ」 ⇨ (中譯) :

淡江大學 106 學年度進修學士班寒假轉學生招生考試試題

系別：日本語文學系三年級

科目：日語翻譯

17-2

考試日期：1月6日(星期六) 第2節

本試題共 六 大題，兩 頁

三、外來語的中日互譯 (1 ~ 5 日翻中、6 ~ 10 中翻日。 $1 \times 10 = 10$ 分)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1、ターゲット：ゆゆゆゆゆゆゆ () | 6、月台：ゆゆゆ () |
| 2、パート・タイム：ゆゆゆゆゆ () | 7、餐廳：ゆゆゆ () |
| 3、オノマトペ：ゆゆゆゆゆゆ () | 8、關鍵字：ゆゆ () |
| 4、グローバリゼーション：ゆゆ () | 9、心理壓力：ゆ () |
| 5、ネイティブ・スピーカー：ゆ () | 10、文化衝擊：ゆ () |

四、將下列日文譯成中文 ($3 \times 10 = 30$ 分)

- 1、外国で生活していても、友達がいる限り、寂しくありません。
- 2、彼は最近アルバイトが忙しいのか、宿題を忘れがちだ。
- 3、こんな平凡極まりない記事は、誰も読みたくないだろう。
- 4、日本語の勉強は1年間では短すぎると言わざるを得ない。
- 5、新しい住所が決まり次第、ご連絡いたします。
- 6、彼はさすがに元オリンピックの選手だけあって足が本当に速い。
- 7、欠点だらけな人間にも、どこかいいところがあるはずだ。
- 8、彼に注意されてはじめて自分の間違いに気付いた。
- 9、環境問題を真剣に考えなければ、人類は絶滅するといっても過言ではない。
- 10、雨のため、運動会は中止を余儀なくされた。

五、將下列中文譯成日文 ($4 \times 5 = 20$ 分)

- 1、我是為了學日文而來報考淡江大學日文系轉學考的。
- 2、搭飛機時，不論是大人還是小孩都要買票。
- 3、無關乎價格，他想要的東西就買。
- 4、他若不願意的話，那我就不麻煩他了。
- 5、又不是老人家，就算沒位子坐，也可以站。

六、將下列日文文章譯成中文 (10分)

「参る」は、聞き手に対する敬意なのだから、「父のところに参りましてから、先生のお宅に参ります」のように、両方に用いることができる。ただし、「先生のお宅へ伺います」とした方が先生への敬意は高まる。これを、「父のところへ伺う」としたら、間違いだ。なぜなら、「伺う」は謙讓語で、相手を高めるから、身内の父を高めていることになってしまふからである。